

日本家政学会
被服構成学部会誌

第45号

令和6年3月

目 次

ごあいさつ	1
次期部長あいさつ	2
令和5年度 被服構成学代会 総会	3
第6回家政学夏季セミナー連携・被服構成学代会企画エクスカージョンスケジュール	4
第6回家政学夏季セミナー連携・被服構成学代会企画エクスカージョン	5
家政学夏季セミナー企業見学会	
①中村ブレイス株式会社	6
②石見銀山群言堂グループ	7
部会エクスカージョン	
①出雲大社をお参りして	8
②石見美術館コレクション展を訪れて	9
③夏期セミナーに参加して	10
令和5年度 被服構成学代会 公開研究例会報告	
講演1 ファッションの未来に関する研究報告書について	11
講演2	
事例1 分野横断による産学連携活動ーアップサイクル企画「PIECE」ー	
事例2 公民連携制度を活用したサステナブルファッション教育の取り組み	12
事例3 産学福連携によるゼミブランド,「ulula」の実践と取り組み	
若手研究者研究紹介	13
第23回 全国中学生創造ものづくり教育フェア報告	15
令和5年度 研究動向(博士・修士論文テーマ, 科学研究費補助金研究課題)	16
会務報告	17
夏期セミナー会計報告	19
令和4年度 被服構成学代会 収支決算書	20
貸借対照表・監査報告書	21
令和5年度 被服構成学代会 収支予算書	22
お知らせ	23
被服構成学代会 規約	24
被服構成学代会 申し合わせ	26
令和4・5年度役員 令和6・7年度役員	27
被服構成学代会入会申込書および変更届, 退会届	28

ごあいさつ

一般社団法人 日本家政学会被服構成学部会
部会長 田中 早苗（東京家政大学）

この2年の間にロシアによるウクライナ軍事侵攻は終息せず、2023年10月にはパレスチナで軍事衝突が勃発し、2024年元日に能登半島地震が発生しました。被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

令和4年・5年の本部会の活動に際しては、運営委員をはじめとする部会員の皆さまのご支援とご協力をいただき、無事に予定の事業を遂行することができましたことに感謝を申し上げます。

初年度の事業企画は新運営委員が発足してから立案を開始しました。例年、本部の活動助成の申請が3月中旬が締め切りとなっており、2月の研究例会を開催する以前から次年度の企画を立てなくてはなりません、「任期交代の時期は新体制で企画してもよいのでは。」と助言して下さった監事の川端先生のお言葉をありがたく受け止め、新運営委員が発足してから立案を開始しました。この方法は令和6年度にも引き継がれます。

令和4年度夏期セミナーは、企画の滝澤先生、角田先生、砂長谷先生の強力な行動力により異例の速さで企画が進められ、6月には学会誌・HPに掲載、8月に無事夏期セミナー『アパレルにおけるSDGsの取り組みーアップサイクル・リメイクの実例ー』を開催したことが忘れられません。令和4年はまだコロナ禍で家政学会第74回大会もオンラインで行われましたが、企画の先生方はオンラインの長所を活かして海外からの講演を実現させ、日本全国から中高教員をはじめとする150名を超す参加者を集めました。また2月の研究例会もSDGsの一環である『日本×海外フェアトレードの実践』をテーマとして、インド伝統刺繍の実演とエチオピアの革製品のブランドビジネスの講演を海外からご登壇いただきました。企画の先生方の広い人脈と創意力に助けられました。

令和5年度夏期セミナーは、前年度延期となった家政学夏季セミナーと連携して島根県大森町のセミナーの後に出雲大社・石見美術館を巡る部会企画エクスカージョンを実施しました。令和5年は年次大会も対面で行われていたので、部会で夏期セミナーを実施するとすれば参加者は家政学夏季セミナーか部会夏期セミナーのどちらかの選択に迫られる、一方、家政学夏季セミナー実行委員には村上副部会長はじめ部会員の先生がいらしたので、できる限り参加して協力したい。いろいろ考えた末の苦肉の策がエクスカージョンでしたが、久々にお会いする部会員の皆さまと親睦の機会を持つことができました。そして2月に開催した研究例会『ファッション未来研究会と大学におけるサステナブルファッションの実施事例』では、経済産業省ファッション政策室の講師による講演を実現させ、企画の先生方が自らの実践事例を講演、先駆的な取り組みに圧巻でした。

令和5年度の活動として特筆すべきことに部会動画の制作があります。これは日本家政学会の活動をより広く社会に発信し、デジタル世代の若い方々に家政学に興味・関心を持っていただくことを目的とするもので、石垣副部会長をリーダーとして企画委員と広報の武本先生で制作にあたり、若い先生方の先進的デジタル知識に支えられて部会として自慢のできる動画に仕上がりました。2月に公開されましたのでご覧になって下さい。

また、この度大塚美智子先生より「日本人成人の人体寸法データブック2014-2016」の販売権を令和6年度から部会に譲渡していただくことになりました。先生は人体計測で私たちが貴重な経験にお導きくださり、その後も数年に渡りデータブックの売上を部会に寄付して下さいました。ここに厚くお礼を申し上げます。

最後に、新年度から石垣新部会長のもと新運営委員によって部会運営が進められます。部会員の皆さまには今後とも変わらぬご協力をお願い申し上げますとともに、ますますのご発展を祈念いたします。

次期部会長あいさつ

一般社団法人 日本家政学会被服構成学部会
次期部会長 石垣 理子（昭和女子大学）

今年には能登半島地震という自然の脅威にまたも晒された年明けとなり、被災された皆様にはお見舞いを申し上げます。また部会員の皆様におかれましては、今期のまとめと新しい年度に向けてのご準備でご多忙の日々をお過ごしと存じます。この度、田中早苗部会長の後を引き継ぎ、令和6・7年度の部会長を拝命することとなりました。歴史ある被服構成学部会の運営を思いがけずお受けすることになりその重責に押しつぶされそうですが、次期副部会長の村上かおり先生、薩本弥生先生、十一玲子先生をはじめ、次期運営委員をお引き受けくださった先生方のご協力を得て、未来へのバトンをつなげるために力を尽くして務めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

次期運営に向けた田中部会長からの引継ぎの最初の任務が、運営委員メンバーの決定でした。本部会では、なるべく個々の負担を分散して部会として滑らかに引き継いでいけるように、各役割を着任時期がずれるように複数で構成して交代できるように工夫しています。近年、ご退官等で部会員を卒業される方々の数を補うには新規入会者が追いつかず、部会員の減少が進む状況の中、直接お声がけをして運営委員をお引き受けいただける方が見つけられるかどうか、実はとても心配しておりました。しかしながら他の方々の人脈などもお頼りさせていただいて、無事令和6・7年度の運営委員は20名の構成で船出の準備ができました。令和4・5年度から継続される先生方が12名、再び委員を務めてくださる先生方が6名、新しく委員を務めてくださる先生方が2名です。例外なく皆が校務等で多忙であろう中、部会の運営維持が研究教育活動の大事な骨組みの一つであると認識してご快諾いただけたことに深謝いたします。今期田中部会長が推進してくださった効率的な部会運営を次期も継承しながら、さらに皆が参加しやすい体制を目指して工夫を重ねていきたいと思っております。

さて、2020年に発生したコロナ禍は予想以上に長引き、私たちの生活に広く大きな影響をもたらしました。様々な方向でのデジタル化が進み、中でもミーティング等のオンライン化は全国に散らばる我々部会員の距離を縮めるツールとして今や定着した感があります。これによって運営側の会場準備の負担も軽減し、皆様にとってもセミナー等部会活動への敷居が低くなって参加の機会が増えたのではないのでしょうか。一方で、オンラインミーティングは双方向性があるとはいえ、参加者全体のモチベーションなどについては雰囲気などがつかみにくい側面もあり、オンラインですべてが十分に代替可能かという点、リアルには及ばないものも確かにあります。コロナの5類への移行に伴い、世の中の機運としても人びとの意識が外へと向き、だいぶ以前の活動範囲に戻ってきていることを受け、今年度は東京家政大学での家政学会年次大会の開催や、2年越しでの島根での家政学夏季セミナーの実現に合わせて本部会でも連携エクスカージョンツアーが催されました。新たに親しくお話しさせていただく方が増えるなど、久しぶりに皆様と直接お会いできることで人の輪が広がる喜びを感じました。

今後の部会の存続を考えると、部会の企画に参加する人を広げ、交流を深めていくことが不可欠です。そこで、次期の活動方針としてはオンラインでの活動とリアルでのイベントの両方を組み合わせることによって、参加しやすい機会を設けることと会員同士の交流を深めることを促進していきたいと考えております。部会員の皆様の部会へのご支援とご協力、なにより活発なご参加をお願い申し上げます。

令和5年度 被服構成学部会 総会

日時：2023年5月28日(日)

場所：東京家政大学

令和5年度被服構成学部会総会は、丸田直美副部会長の司会により下記の通り進行した。

総会次第

- | | |
|---------------------|--------|
| 1. 開会の辞 | 石垣 理子 |
| 2. 部会長挨拶 | 田中 早苗 |
| 3. 議長選出 | 大塚 有里 |
| 4. 議事 | |
| (1) 令和4年度事業報告 | 中村 邦子 |
| (2) 令和4年度会計報告 | |
| ① 令和4年度収支決算報告 | 鈴木 由子 |
| ② 令和4年度夏期セミナー会計 | 鈴木 由子 |
| ③ 令和4年度貸借対照表 | 鈴木 由子 |
| (3) 令和4年度会計監査報告 | 川端 博子 |
| (4) 令和5年度事業計画(案) | 中村 邦子 |
| (5) 令和5年度夏期セミナーについて | 田中 早苗 |
| | 村上 かおり |
| (6) 令和5年度研究例会(案) | 滝澤 愛 |
| (7) 令和5年度予算(案) | 鈴木 由子 |
| 5. 議長解任 | |
| 6. 報告事項 | |
| (1) 部会員数について | 柴田 優子 |
| (2) その他 | |
| 7. 閉会の辞 | 村上 かおり |

上記の議事について審議し、承認された。

第 6 回家政学夏季セミナー連携・被服構成学部会企画 エクスカージョンスケジュール

東京家政大学 田中 早苗
広島大学 村上 かおり

第 6 回家政学夏季セミナー	<p>テーマ：世界遺産 石見銀山の町，大森町で体感する日本の未来の暮らしー持続可能な地域社会ー 日 程：2023年9月3日(日)～5日(火)</p>
	<p>14：00 開場 会場：大森町町並み交流センター（旧 大森区裁判所） 14：30～14：40 開会挨拶 14：40～15：40 基調講演：持続可能な地域社会ー商店街の復活ー 昭和の暮らし博物館 館長（熊谷家住宅元館長） 小泉和子氏 15：55～16：35 講演Ⅰ：昔の暮らしから見た日本の姿 石見銀山資料館 館長 仲野義文氏 16：45～17：25 講演Ⅱ：「復古創新」のライフスタイル 株式会社石見銀山生活文化研究所 相談役 松場登美氏 17：30～18：00 公演：土江子ども神楽団 18：40～20：30 情報交換会（石見銀山夜学の宴） 会場：国指定重要文化財（熊谷家住宅） 献立：地元業者連合と地元食材によるコラボメニュー テーマ：食品ロス問題と日本人のおもてなし文化回帰</p>
	<p>9 月 3 日</p>
	<p>10：00～11：15 講演Ⅲ：未来の暮らしからみた大森町の姿 石見銀山みらいコンソーシアム 理事長 松場大吉氏と コンソーシアムメンバーの皆さん 11：15～11：35 大森さくら保育園児による遊戯 12：00～17：00 エクスカージョン： 大森町の町並み散策（世界遺産センター／龍源寺間歩／いも代官ミュージアム他）</p>
被服構成学部会企画エクスカージョン	<p>9：30～13：00 エクスカージョン 企業見学会 ①中村プレイス株式会社 ②株式会社石見銀山群言堂グループ 13：00 閉会</p>
	<p>5 日</p> <p>テーマ：「石見美術館 '60～'70 年代ファッションを訪れる」 日 程：2023年9月5日(火)～6日(水)</p> <p>14：00 銀山公園駐車場出発（チャーターバス） 15：00～17：00 出雲大社 散策 19：00 ホテル着（浜田市）</p>
6 日	<p>9：30～11：30 島根県立石見美術館 コレクション展見学 1960ー1970年代のファッション 13：00～15：00 萩 千春楽城山：萩焼窯元見学／萩城下町散策 15：15～16：00 松下村塾 見学 16：30 JR東萩駅 17：30 石見空港</p>

第6回家政学夏季セミナー連携・被服構成学部会企画エクスカージョン 「石見美術館'60～'70年代ファッションを訪れる」

広島大学 村上 かおり

令和5年度の被服構成学部会夏期セミナーは、(一社)日本家政学会が主催する第6回家政学夏季セミナーと連携し、2023年9月3日(日)～6日(水)にかけて、島根県大田市大森町を始めとする数カ所で開催されました。前半に実施された第6回家政学夏季セミナーは、3日(日)から5日(火)午前までの日程で、「世界遺産 石見銀山の町、大森町で体感する日本の未来の暮らし—持続可能な地域社会—」をテーマとして行われました。大森町の在り方を模索しながら牽引しておられる、一般社団法人石見銀山みらいコンソーシアム理事長の松場大吉様をはじめ、町内にある多くの団体、施設と企業のご協力を得て、被服構成学部会員を含む約70名の方々が現地の暮らしを体感しながら過ごした3日間でした。最終日の5日午前には企業見学会が実施され、地元企業である石見銀山群言堂と中村ブレイスの2社を見学しました(詳細は後に示す)。

家政学夏季セミナーが5日13時に終了後、石見銀山の交通の拠点である銀山公園駐車場から被服構成学部会の企画エクスカージョンがスタートしました。チャーターしたバスに参加者が乗り込み、まずは出雲大社に向かいました。その日の朝から私たちの行く手に鎮座していた雨雲は、その後も時折強い雨を降らせましたが、バス車内では経験豊富なバスガイドさんの軽妙な語りが響いていました。最初に訪れた出雲大社では、要所所で多くの解説を聞くことができました。日が暮れ始めた頃、島根県浜田市へと移動し、ホテルにて参加者全員(計14名)で夕食をともにしました。夕食会では、参加者それぞれが一言ずつ言葉を述べ、久しぶりの会食を楽しむことができました。

翌6日(水)は、今回の企画の目玉である石見美術館を訪問しました。島根県はファッションデザイナー森英恵氏の生誕地でもあることから、島根県立石見美術館(益田市)ではこれまでに多くのファッションに関する企画が行われてきました。この日は、「コレクション展 1960-1970年のファッション」を見学することができ、その時代を彩ったファッションを自分の目で見る楽しさを味わうことができました。その後島根県益田市からさらに西に進み、山口県萩市へと向かい、萩焼の窯元の施設で昼食をいただきました。窯元を見学し、被服とはまた違ったものづくりにふれることができました。そして、その後は萩の城下町を散策、最後の訪問地である松下村塾を目指しました。短時間ではありましたが、島根県大田市から、浜田市、益田市、山口県萩市と山陰西部を堪能することができました。各地からの参加者は、チャーターバスを降りて東萩駅から新山口に向けて高速バスに乗車する人、そのままチャーターバスで石見空港に向かい羽田空港に向かう人に分かれ、楽しかった研修旅行を終えることとなりました。

今回の企画は、部会長の田中早苗先生が旅行会社と丁寧に企画してくださったおかげで実現できました。またコロナ禍が続いた後の、久しぶりの対面による現地視察を含む企画であったため、いつも以上に人とのふれあいを感じることができ、本当に有意義な時間を過ごすことができました。ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。改めて感謝の気持ちをお伝えさせていただくとともに、このような学びの多い企画が今後も実施できることを願っています。

6ページから企業見学会で訪れた企業について、詳細を示します。

中村ブレイス株式会社

神戸女子大学 十一 玲子

中村ブレイス(株)は、1974(昭和49)年に中村俊郎氏(会長)が、京都と米国での研修・留学を経て故郷である島根県大森町にUターンし、義肢・装具や人工乳房などを製造する会社を、自宅前の10坪(33平方メートル)の納屋を改装し起業した。町は、過疎化が進み非常に厳しい状況下であり、人々の元気の「もと」になることを願い、社員とともに努力を重ねた。その後1982(昭和57)年に法人化(株式会社)し、国内外を問わず注文を受ける会社に成長した。1991(平成3)年には、メディカルアート研究所を設立し、“スキルナー”の研究・開発を行い、多くの賞を受賞し、社会貢献にも寄与されている。

社名には、地域やそれに関わる人々を支えたいとの思いを込め「Brace(支える)」とした。1997(平成9)年、モンゴル大火災の被災者であるツォグト・オチル君が来日し、当社が義足の依頼を受けて製作を行ったことが話題となった。「人にやさしいものづくり」を行っている「再生」の先にある希望へ向かって、THINKしていくことが社事となっている。

私たちは、中村宣朗氏(代表取締役)から実際に装具などを手にとりながら説明を受け、その後装具を見せていただいた。装具とは、身体の一部が弱ったり、機能が失われたりした時に使用するコルセットやサポーターのことである。世界初のシリコンゴム製インソールを開発し、単に欠損した身体の一部を精巧に製作するだけでなく、「患者さんの身体も心も支えたい！」との思いを忘れることなく、会社もその理念を含み患者さんの生活の質が少しでも向上し、大切な日常生活が取り戻せるよう日々製作に取り組んでいる。国内や海外での治療やリハビリのための装具として多くの人々に必要とされており、それぞれの要望に応えるための美しさと機能性の融合を目指していることがよくわかった。また、新技術や新素材を取り入れての技術研究を重ね、オリジナルの器具の開発にも努力をされている。

今回、このような見学の機会をいただいたことに感謝し、大森町とその町の人々の温かさを伝承し、中村ブレイスの方々が町全体の活気づけをしていることに感銘を受けた。また機会があれば、伺いたい気持ちでいっぱいになった。ありがとうございました。

参照:中村ブレイス(株)HP <https://www.nakamura-brace.co.jp/>



中村宣郎代表取締役より説明を受ける



中村俊郎会長よりごあいさつ



義肢装具の実物



義肢装具室の風景

石見銀山群言堂グループを見学して

共立女子大学 丸田 直美

令和5年9月3～5日で開催された第6回家政学夏季セミナーに参加させていただき、5日開催の企業見学会において、石見銀山群言堂グループを見学させていただきました。「石見銀山群言堂」というのはブランド名で、社名は「株式会社石見銀山生活文化研究所」といい、本社はセミナー会場であった、世界遺産・石見銀山のある島根県大田市大森町の小さな町にあります。アパレルブランドのイメージが大きいかと思いますが、「衣類」だけにとどまらず、温かみのある雑貨などを通して里山暮らしに根ざしたものづくりの魅力を全国に発信し続けておられ、暮らしに関する様々なアイテムを提案しているライフスタイルブランドです。



石見銀山生活文化研究所 鄙舎(ひなや)
(家政学セミナー実行委員会より提供)

4日までは照り付けるような暑さの猛暑日だったのですが、見学日の5日は朝から雨になり、雨の中の見学になりました。本社屋は写真のような藁葺き屋根の建物です。広島から築260年のものを移築されたということでした。中に入らせていただき所長の峰山様(松場様ご夫婦の娘さん)よりグループ全体についての説明を受けました。お部屋からみた外(お庭)の風景もとても素敵でした。そこに仲間が集まってお酒を飲みながら、美味しいものを食べ、語り合う空間として、鄙舎に似合うものを少しずつ加えて作られていったものだとお話をされていました。鄙舎のそばには社員の方々が働いておられる建物が併設されていて、そちらも見学させていただきました。我々は被服分野の教員が多かったことより、入口だけでなく、CAD室、製品保管室などいろんなお部屋を見せていただきました。社員の皆さまがお仕事中にもかかわらず笑顔で迎えてくださり、とてもありがたかったです。



多郷阿部家(筆者撮影)

その後、「多郷阿部家」という宿泊施設も見学させていただきました。築230年の武家屋敷を再生された建物で、何度も帰ってきたくなる「暮らす宿」としての空間づくりを進められたそうです。一日2組限定で、夕食には家主の松場登美さんがご一緒されるということで、楽しい食卓が想像できました。

最後に、少し離れた古い民家に案内していただきました。群言堂発祥の場所ということでした。この小さな空間からスタートされた創業者の松場様ご夫婦のこれまでの道りを思うと感慨深いものがありました。

古いものに固執するのではなく、いにしへの良きものをよみがえらせ、そのうえに新しい時代の良きものを創っていくことを大切にものづくりをされているということ、モノづくりを通して、生き方・暮らし方をデザインし、提案したいと思われているその「思い」がとてもよく伝わってきた見学会でした。松場様ご夫婦の思いは娘さん、さらには会社の方、地域の皆さまにも伝わり、訪れた我々もその心地よい空間と時間を共有させていただけたように感じました。



群言堂発祥の部屋
(筆者撮影)

出雲大社をお参りして

和洋女子大学 伊藤 瑞香

令和5年度被服構成学部会夏期セミナーは、第6回家政学夏季セミナーと企画連携して島根県の名所を巡った。島根県といえば、国譲り神話や縁結びで有名な大国主大神が祭られている出雲大社である。島根県東部にある出雲市、正式名称を出雲大社(いずもおおやしろ)というそうだ。初めての訪問であり、参拝の方法は他の神社とは異なり二礼四拍手一礼となっている。その理由は諸説あるようだが、四季を表し実りと繁栄を祈願しているとか、東西南北(四方向)を守護する神に敬意を示しているとも言われている。

さて今回のお参りでは、出発前から大しめ縄が大変気になっていた。これまで映像では何度か拝見したことはあったが、実物を目にするのは初めてであった。長さ13.6メートル、重さ5.2トンで、数年に1回は1000人の町民の手で1年をかけて新しいものと交換されている。その大しめ縄は本殿に鎮座しているのかと思いきや、所在は少し離れた神楽殿であった。ガイドさんが勘違いをしている人がたまにいるということで、お恥ずかしながら私はその一人であった。本殿は高さ24mもあり、大変厳かな大社づくりで、木造の本殿では日本一ということである。20年前にかつての本殿位置が発掘され、その柱は直径3mで鎌倉時代のものであることが分かった。その時代に出雲は品質のよい巨木が採取できたことが推測される。当時の本殿の高さは48mとも言われているが、なかなか想像しがたいものである。それほど大きな大社が奉納されたことは、それだけ出雲の地が繁栄していたことが窺える。港を介して他国との交易が盛んであり、民の暮らしも穏やかで、信仰心も強くあり今日にまで継承されてきたものと思われる。旧暦10月には神迎え神事が行われ、他の神様たちをお迎えする。そのため他の県では神無月というが、ここ出雲では神在月と呼ばれている。

今回ここへ導いてくださった、縁結びの神様に感謝しながら散策をすることとした。



出雲大社(本殿)(筆者撮影)



大しめ縄(神楽殿)(筆者撮影)

石見美術館コレクション展を訪れて

和洋女子大学 伊藤 瑞香

「島根県立石見美術館」は、島根県芸術文化センター内にあり「島根県立いわみ芸術劇場」との複合施設の一つである。通称「グラントワ」と呼ばれ、島根県が誇る石州瓦の切妻屋根が特徴で、訪れた日はあいにくの雨模様ではあったが、広大な建物の石州瓦の赤褐色に大小の雨粒が反射して非常に美しい光景でもあった。

建物の広大さとデザインの素晴らしさから、島根県がいかに芸術振興が盛んであるかを窺い知ることができた。

9月6日から開催している、コレクション展1690-70年代のファッション展を見学し、学芸員の方からもレクチャーを頂いた。1960年以前は、クリスチャン・ディオールが発表したニュールックのAラインスカートなど、世界的に人気を得たが、若者ファッションというものについては特に特徴的なものは存在していなかった。60年代からになると、時勢や技術革新も相まって、オートクチュールは衰退していくが既製服業界が繁栄することになり、戦後生まれの若者たちが成人し、若いエネルギーとともに自身で好みのファッションを選択し、アイデンティティを表現し始めたのである。「クレージュ」により初めて発表されたミニスカートは、若者にも受け入れられファッションの大きな転換期を迎えることとなる。イギリスのファッションモデルのツイギーがミニスカートで登場し注目を集め日本の女性の憧れの的になったことも有名である。

展示されていた(左の写真[一番左])クレージュのミニのデイ・ドレスは、腹部が透けていることで、革新的なデザインではあったが、可愛いらしさの中にも上品な作品であり、これからの女性の洋服に一石を投じたファッションになったことは間違いない。そして、島根県出身の誇るべき森英恵氏の作品も展示されていた。右の写真は1960年代後半の森英恵氏のデイ・ドレスである。オートクチュールのドレスで知られる森氏であるが、1960年代後半から既製服も手がけている。時代は大量生産により市場には様々なものが出回るようになり、洋服への価値観の変遷が感じられる。このような時勢に森氏がデザインした、ナイロンジャージのワンピースは、その当時の若い女性たちには大変魅力的に映ったのである。素敵なデザインとは何年経っても新鮮に映るものである。



クレージュのミニのデイ・ドレス(筆者撮影)



森英恵のデイ・ドレス(筆者撮影)

夏期セミナーに参加して

美作大学 小山 京子

令和5年度被服構成学部会夏期セミナーは、第6回家政学夏季セミナーと連携して島根県の名所と石見美術館を訪れる「石見美術館'60～'70年代ファッションを訪れる」と題したエクスカージョンでした。残暑厳しい中日程は、9月5日午後出雲大社と懇親会、6日は石見美術館と萩散策でした。

私は久しぶりの夏期セミナーで、参加は懇親会と石見美術館見学のみでしたが、懇親会では久しぶりにお会いした先生方とお話がはずみ、また、他部会の先生方の参加もあり、人数は14名と多くはありませんでしたが、大変楽しい時間を過ごすことができました。

その中で、私事で申し訳ありませんが今回のセミナーで一番のうれしかったことは、大先輩であり元部会長だった高部啓子先生にお目にかかり、とてもお元気そうな先生とお話することができたことです。高部先生にはずいぶん前の夏期セミナーで、時間数の少なくなった被服構成学実習の授業内容についてアドバイスいただき、おかげで今も頑張って授業を続けています。

6日は朝から大雨の中、約1時間かけて益田市のグラントワ(美術館×劇場という芸術基地)内の石見美術館に到着しました。ちょうどこの日から、島根県出身で服飾デザイナーである森英恵氏が活躍された1960-70年代ファッションのコレクション展が開催されていました。到着後は美術館の学芸員から石見地方や美術館の歴史をレクチャーしていただきました。

その後、いよいよ今回のエクスカージョンのメインであるコレクション展の会場に行きました。会場の展示作品は多くはありませんでしたが、まず、アメリカのアーティストであるアンディ・ウォーホルがデザインしたスーパースターのワンピースに迎えられました。不織布にプリントしたとは思えないような赤と白の目を見張るようなドレスでした。しかし、気になるのは森英恵氏のドレスです。森氏は、華麗なオートクチュールのドレスで知られていますが、1960年代は既製服も手掛けており、展示作品はプリントしたナイロンジャージーのワンピースでした。目を引く赤を基調としたプリント柄で、大きめの襟やカフス、ウエストには赤い蝶結びのようなベルトが付いていました。1965年頃から日本でも話題となったミニスカートは、その後航空会社のユニフォームにもなり、伊藤茂平氏のミニワンピースも展示されていました。

クレージュの昨品の一つは、1968年にオートクチュール発表したデイドレスです。ナイロンチュールに綿レースで刺繍したワンピースで、ウエストあたりには裏地がなく腹部が透けて見える、清楚さと大胆さを併せ持つ当時としては画期的なミニのドレスでした。また、白い厚手のウールを使用したシンプルなミニドレスも展示されました。会場内にはドレスのほか、遊び心溢れるシューズやポスター、当時の「anan」や「JJ」の創刊号も展示されており、その表紙や説明文を大変懐かしく見ることができました。見学は1時間ほどの短いものでしたが、当時に思いをはせ大いに学び楽しむことができました。

その後、グラントワ内の施設を見学し、一行は雨の上がった美術館から萩に向かって出発されました。

私は残念ながら参加できませんでしたが、萩城址、松下村塾などを見学されました。



令和5年度 被服構成学部会 公開研究例会報告

「ファッション未来研究会と大学におけるサステナブルファッションの実施事例」

<講演 1> 「ファッションの未来に関する研究会報告書について」

経済産業省 ファッション政策室 総括補佐 阪本 裕子 氏

今回の阪本氏のご講演では、多くの有識者で創り上げたファッションの望ましい未来に向かうための報告書について、丁寧に分かりやすくご紹介して頂いた。当該報告書は3分野(人と自然に調和的なファッション、テクノロジーで変わるファッション、新たに価値を生み出すファッション)に大別され、教育現場で学生達との議論にも役に立つなど、具体的な利用方法についてもご紹介頂いた。

阪本氏の上記の3分野のご説明から、従来型のサステナビリティ関連問題点等を含むファッション産業の構造に対して、今後、望ましい未来のファッション(循環的かつ高い透明性を有し、デジタルとリアルを行き来しながら新たな価値を創出)に向けた取り組みについて早急に着手することは、日本が世界に対してファッションの「未来づくり」をリードしていくことに繋がるのだと教えて頂いた。

また、デジタル化が進む我が国では、今回ご紹介頂いた報告書で議論されるようなAI・デジタルで代替できないファッションの創造的な領域の経済活動を活性化させることが、未来の子供たちの活動領域を厚くしていくのだと学んだ。

今後、突出した個性と日本の地域の強みを掛け合わせた新しいラグジュアリーとして考えられる価値の源泉3つ(独自の創造性を有する人の個性、各国・地域において積み重ねてきた伝統、人と自然との調和・利他性)を構築できれば、文化を次世代に向けてアップデートしやすくなり、未来の文化資源(ジャパン・クール)創りにもつながることを、丁寧に分かりやすく教えて頂いた講演であった。

(記録:小野寺 美和)

<講演 2> 「大学におけるサステナブルファッションの取り組み事例」

【事例 1】

「分野横断による産学連携活動—アップサイクル企画「PIECE」—」

相模女子大学 角田 千枝

私の所属学科は様々な分野が学べる生活デザイン学科である。「サステナビリティは分野を問わず取り組むべき課題である」との考えを基に、ファッション、プロダクト、建築、ヴィジュアルの4領域が協力し、2021年度にアップサイクル企画「PIECE」に取り組んだ。

協力企業4社から、アパレル企業のシーズンオフによる廃棄衣料、返品などによる不要ファスナー、織物工場で排出される生地、家具工場から排出される規格未達の廃材などを提供していただいた。ファッション分野で廃棄衣料・ファスナー・生地、家具分野で廃材を用いたリメイク衣装を3シーン分制作し、デジタル分野でそれらの衣装を素材としたストップモーションによる映像作品を制作し公開した。また、プロダクト・テキスタイル分野は生地を用いたバッグや、アクセサリなどを、建築分野は廃材を用いた可変するディスプレイ台を制作した。

これらの作品は、新宿マルイ本館にあるコンセプトショップにて展示および販売を行った。学生たちは接客により、日常買い物をしている店舗で展示販売できる喜びのみならず、客観的に自分の作品について見つめなおす機会、作品説明を重ねるごとにサステナビリティへの理解が深まるなど、通常の授業では得られない学びとなった。また、分野を横断し取り組んだことで産業廃棄物に対する視野を広げることに繋がった。

【事例 2】

「公民連携制度を活用したサステナブルファッション教育の取り組み」

文化学園大学 砂長谷 由香

Sustainableの取り組みが様々な分野で行われている中、ファッション分野の企業でも活動が更に活発化し、教育面でも必要不可欠な内容となっている。そのような背景から、大学教育でも社会から求められる人材教育としてその内容をバージョンアップする必要があると考える。本学ファッションクリエイション学科は、ファッション産業の発展とそれらに関係する環境の質向上に貢献できる人材の育成を目的としており、服づくりの知識と技術を理論的・実践的に学ぶことを柱としている。そして、個性や創造力と社会動向に対して熟考し実行する力の必要性を感じている。講演では、1年次から3年次の担当科目のサステナブルファッション教育事例を紹介した。特に3年次の授業の公民連携制度[S-SAP協定]の活用による、企業の在庫商品提供によるアップサイクル作品の企画・製作及び公開内容の紹介と、受講学生のサステナブルファッションに関する意識向上や卒業生の活躍を講演した。



【事例 3】

「産学福連携によるゼミブランド、「ulula」の実践と取り組み」

実践女子大学 滝澤 愛

3番目の事例紹介として、2022年度に、当時の所属先大学であった椋山女学園大学のゼミ学生と産学福連携で取り組んだブランド、「ulula(ウルラ)」についての報告を行った。このゼミブランドは、繊維商社大手の瀧定名古屋株式会社の婦人服地32課(以降瀧定)と、社会福祉法人名古屋身体障害者福祉連合会 第一ワークス・第一デイサービス(以降名身連)との協業によるもので、瀧定から提供を受けた廃棄予定の未利用繊維素材を活用し、ゼミ生が商品の企画・デザイン・制作を担当、そして名身連の利用者である障害者の方々に縫製等の業務を委託した。このように連携をして出来上がった「アップサイクル」、「ゼロウェイスト」、「サステナブル」、「エシカル」な商品を消費者に販売することにより、資源を循環させ持続可能な社会を目指すこと、障害のある方々の雇用創出と技術の高さを消費者に広く認知して頂くこと、加えて大学生が地元繊維産業に触れ、その良さを識り活用することで地域ぐるみで盛り上がり、地場産業の魅力を若い世代に伝え未来の消費者を増やすこと、これらを活動の目的とした。

取り組んだプロジェクトは3つあり、「アップサイクル アクセサリー企画」と「廃棄シートベルトを活用したバッグ企画」の商品はJR名古屋タカシマヤの催事「やさしい暮らしと彩るモノたち展」[会期:2022年10月27日(木)~11月1日(火)]で販売した。「アップサイクル スモック企画」は18種類のデザイン100着が製作され、2022年12月、愛知県内18の保育園に贈呈した。「ulula」ブランドと3つのプロジェクトは、2024年も現在進行中で活動が引き続き行われている。

最後にパネルディスカッションが行われ、研究例会は盛会裏に終了した。

就労時の妊婦の衣服設計に関する研究 — 就労時の衣服選択と動作、妊婦の腹部形状分析について —

和洋女子大学 田中 あゆみ

1. 研究の背景

就労時の妊婦の負担を軽減する衣服設計について検討することを目的として研究に取り組んでいる。近年、共働き世帯数の増加する中、妊娠・出産後も就労を継続する割合は増加傾向にある。妊娠中の女性の身体には、胎児の成長に伴う体型変化やマイナートラブルの出現、歩行などの動作の変化が起こることが知られている。2022年の第一子出産時の母の平均年齢は30.9歳で、合計特殊出生率の統計は30代、40代が上昇傾向にある。キャリアを積み、責任のある立場にある女性が妊娠し、勤務していることがうかがえる。マタニティウエアはゆったりとしたワンピーススタイルが主であるが、就労時の非妊娠時の女性のオフィススタイルはパンツを選ぶ傾向があり、必要とされるマタニティウエアの種類も変化していることが予想される。妊娠中も就労を継続する女性には身体的な負担が多くかかっていることが推測され、就労時の妊婦の負担を軽減するために衣服面からサポートできる点が多くあると考える。本稿では就労時の妊婦の衣服選択と身体的負荷を感じる動作、妊娠後期の妊婦の腹部形状分析について検討した研究について報告する。

2. 就労時の妊婦の衣服選択と身体的負荷を感じる動作について

本研究では、妊娠中に就労を継続していた経産婦150名を対象にアンケート調査を行い、妊娠中の就労時の衣服選択と身体的負荷を感じる動作について検討した。妊娠中の就労時によく着用したアイテムは、妊娠中期、妊娠後期にマタニティ用ズボンと回答した割合が高く、業務内容に合わせて動きやすさを重視して選ぶ傾向がみられた(図1)。また、就労時にマタニティ用でないズボンやマタニティ用ズボンを着用していた妊婦には腹部の圧迫感に関する不満があり、改善すべき課題があることが示唆された。就労時に非妊娠時と比べ負担と感じ

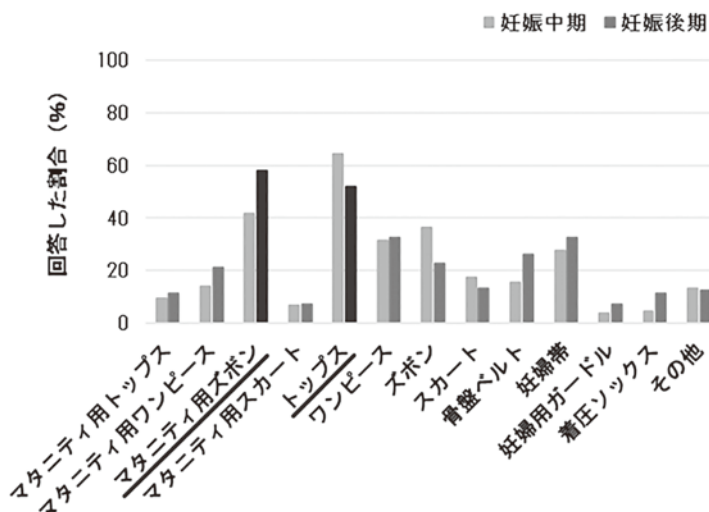


図1 妊娠中によく着用したアイテム(就労時)

る動作は、階段の昇降、椅子から立ち上がる、前かがみ、しゃがむといった脚部が腹部に近づく動作であった。デスクワークを行う妊婦は、特に椅子に座る動作、前かがみになる動作を困難と感じる度合いが高く、座位姿勢で勤務する時間が長いためと考えられた。フィールドワークを行う妊婦は、動きやすさを重視しているためズボンを着用する傾向があった。BMIや職種により、選ばれる衣服の種類は異なる傾向がみられた。職種や体格に合わせた衣服選択では、アイテムの種類だけでなく幅広いサイズ展開のある衣服設計が求められていることが示唆された。¹⁾

3. 妊娠後期の妊婦の腹部形状分析について²⁾

本研究では、マタニティパンツの設計を検討するための基礎資料を得ることを目的として、妊娠後期の女性を対象に三次元人体計測を行い腹部表面の形状変化について分析した。30歳代の妊婦8名を対象に1～4回の計測を行い、三次元人体計測データより腹部表面の形状を採取した(図2)。腹部形状をそのまま平面展開すると凹凸部分を正確に平面化することが難しいため、約90パーツに分割し、各パーツの表面積の増減を検討した。その結果、妊娠7～8か月、妊娠8～9か月、妊娠9～10か月の増加率の平均値を比較すると、妊娠8～9か月の腹部表面積の増加率が大きい傾向がみられた。腹部表面積は腹部全体で増加がみられるが、その増加率は腹部中央および腹部下方で大きい傾向があった。ただし、妊娠週数や腹囲が近似している被験者であっても腹部表面積の増加率や増加位置は異なり、個人差が大きいことが示唆された。腹部形状を平面展開した際に腹部上部で下部胸囲側に逆三角形の形状をしている隙間と腹部下部で鼠径線側に三角形の形状をしている隙間が生じる(図3)。上下の間隙を比較すると下部間隙の方が大きくなっている被験者が多かった。腹囲の増加に伴う下部胸囲の増加量に対して鼠径部付近の周径の増加量が小さく、妊娠経過による腹囲との周径の差が下部胸囲に比べ鼠径部付近の方が大きいことが示唆された。

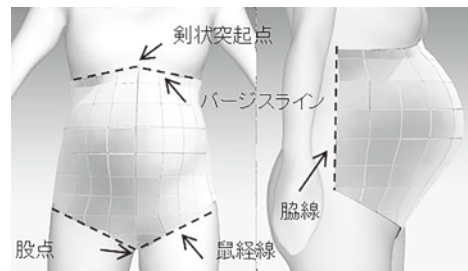


図2 腹部形状の採取方法

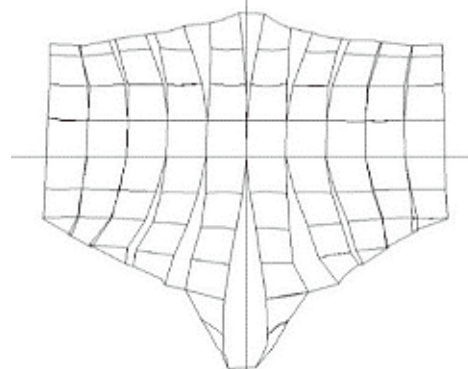


図3 腹部形状を二次元化し配列した状態

4. 今後の展望

現在、これらの研究結果をふまえて、妊娠初期・中期・後期の妊娠期全体を通して三次元人体計測を行い、身体的負荷を感じる動作時の身体寸法変化を解析している。マタニティウェアは主に経月で変化する胸部や腹部の膨らみのみに対応しており、動作をサポートする機能を持たないものがほとんどである。就労時の妊娠中の女性の負担を軽減できるサポート衣服の設計を目指したいと考えている。

本報告は、被服衛生学(42,2-8,(2023)), 日本衣服学会第73回年次大会および日本人間工学会第64回大会において発表した内容をまとめたものです。本研究の一部は、令和元年・2年度和洋女子大学研究奨励費およびJSPS科研費22K21214の助成により行いました。

引用文献

- 1)田中あゆみ,村木里志; P2E1-15 就労妊婦の衣服選択に関する意識調査,人間工学59(Supplement), P2E1-15-P2E1-15,2023-09-07
- 2)田中あゆみ,丸田直美;マタニティパンツ提案に向けた妊娠後期女性の腹部形状分析,被服衛生学, 42,2-8(2023)

第23回 全国中学生創造ものづくり教育フェア報告

東京家政大学 田中 早苗

令和5年度『豊かな生活を作るアイデアバッグコンクール』の審査は、令和6年1月20日(土)、山梨県笛吹市立石和中学校を会場として行われた。全国から選抜された9名の選手の作品が集められ、事前に提出されたレポート、作品、3分間のプレゼンテーションを4名の委員によって審査した。昨年もオンラインの審査に参加し、今年こそは対面で一同に会した競技が行われるものと想像していたが、オンラインで開催することの事情を書き留めておきたい。アイデアバッグコンクール大会要項の「競技の課題および課題製作上の注意点」では、縫製について「3時間程度で製作できる作品とする」とされているが、優秀作品はどれも3時間程度で縫製したとは言いがたい、手の込んだ作品ばかりである。使用する布は、「バッグ本体の全部または、一部に、家庭にある自分または、家族の衣服を用いる。」とされ、手縫いによる「まつり縫い」と「スナップを付けること」も課題とされている。対面で競技を行っていた頃は、生徒が同じ作品を練習で2度も3度も作って競技に臨んだ生徒もいると聞くが、リメイクに使う材料には限りがあり、練習布が無駄になる場合もあり得る。オンラインの審査をコロナが落ち着いた現在も続けている理由には、他にもあるかも知れないが、オンラインにすることによって製作に多くの時間をかけてじっくり作ることができるということも一理ある一方で、実際に生徒自身の力量で製作されたのか疑問に思われる作品も見られる。オンラインは限りある材料で時間をかけて製作できる反面、生徒の力で製作されたのか否かを判断しにくい。今後は、審査方法と併せて競技方法にも工夫を要するのではないかと思われた。

アイデアバッグの表彰の種類は、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞、特許庁長官賞、公益財団法人つくば科学万博記念財団理事長賞、全日本中学校技術・家庭科研究会会長賞、日本家庭科教育学会会長賞、女子栄養大学学長賞、一般社団法人日本家政学会被服構成学部会長賞、全国家庭科教育協会会長賞の九つあり、集められた優秀作品はいずれかの賞を受賞する。賞の順位は一位が文部科学大臣賞、二位が厚生労働大臣賞、被服構成学部会長賞は8番目である。今年度の部会長賞は、藍色の異なる種類の使い熟したデニムをパッチワークでつなぎ合わせたマチ付きトートバッグである。手触りが良く、素朴な風合いが生徒の縫い方とマッチングして、手作り感満載の作品にたいへん満足であった。奨励賞は、学校指定のカバンの中を整理するバッグインバッグの「何でもスッキリ収納ポーチ」、もうひとつは涼しさを追求したチュールリップスリーブの「爽やか花柄のワンピース」。公式ホームページは『中学生、ものづくり』で検索することができる。



左 :「おしゃれで実用的なデニムトートバッグ」
中央:「何でもスッキリ収納ポーチ」生徒作品 家庭Ⅰ
右 :「爽やか花柄のワンピース」生徒作品 家庭Ⅱ

被服構成学部会長賞
被服構成学部奨励賞
被服構成学部奨励賞



令和5年度 研究動向（博士・修士論文テーマ, 科学研究費補助金研究課題）

「2023年度博士論文テーマ」

「中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育に関する研究」

庄 莉莉(主指導教員:鈴木 明子,副指導教員:村上 かおり)広島大学大学院 人間社会科学研究科

「2023年度修士論文テーマ」

「中学校家庭科における浴衣着装体験を取り入れた指導方法の提案」

牧野 晃子(指導教員:柴田 優子)和洋女子大学 総合生活研究科 総合生活専攻

「のん太の家庭科室」活動による生活実践力の変容に関する研究

一糸と針を使ったものづくりの企画・実践を通して—

山竹 愛海 (主指導教員:村上 かおり,副指導教員:鈴木 明子)

広島大学大学院 人間社会科学研究科

「令和5年(2023)年度 科学研究費補助金 研究課題」

基盤研究(C)

「アパレルCAD システムを用いた風合い「しっとり」の触覚と視覚評価の関係」

2019年度～2023年度, 研究代表者:武庫川女子大学 末弘 由佳理

「乳がん患者の衣服選択を支援するスマートミラー開発のための基礎研究」

2021年度～2023年度, 研究代表者:文教大学 土肥 麻佐子

「シエラレオネの職業訓練生の技能教育教材開発を活用した衣生活教育力育成の構想」

2021年度～2023年度, 研究代表者:広島大学 村上 かおり

「個人のデザインアイデアをファッション市場に活かすデジタルドローイングの基礎研究」

2021年度～2024年度, 研究代表者:滋賀県立大学 森下 あおい

「社会的弱者の安全に役立つ視認性に優れた新規の蓄光布と蓄光衣服の創製」

2022年度～2026年度, 研究代表者:甲南女子大学 小野寺 美和

(注:継続研究と部会員の皆様への呼びかけに対して,お申し出頂いた分のみ掲載いたしました。)

会 務 報 告

1. 令和5年度会務報告

1) 事業報告

① 総 会

日時: 令和5年5月28日(日) 14:45~15:45

会場: 東京家政大学

② 令和5年度家政学夏季セミナー連携・

被服構成学部会企画エクスカーション

「石見美術館'60~'70年代ファッションを
訪れる」

日時: 令和5年9月5日(月)~6日(火)

場所: 石見美術館, 萩市街

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援と

『豊かな生活を創るアイデアバッグ』

コンクール審査

日時: 令和6年1月20日(土)

場所: 笛吹市立石和中学校

開催方法: 全国より選抜された実物作品の審査

オンラインによるプレゼンテーションの審査
結果発表

(全日本中学校技術・家庭科研究会webで

公開、表彰式はなし)

④ 研究例会

「ファッション未来研究会と大学における
サステイナブルファッションの実施事例」

日時: 令和6年2月26日(月)

開催方法: オンライン形式

(3) 令和4年度会計監査報告

(4) 令和5年度業計画(案)

(5) 令和5年度夏期セミナー(案)

(6) 令和5年度研究例会(案)

(7) 令和5年度予算(案)

(8) 部会誌第45号編集(案)

(9) 部会員数について

(10) その他

② 第2回運営委員会

日時: 令和5年7月28日(金)

開催方法: オンライン形式

(1) 第6回家政学夏季セミナー連携・

被服構成学部会企画エクスカーションについて

(2) 令和5年度研究例会について

(3) 部会誌第45号編集(案)について

(4) 令和5年度ものづくり教育フェアについて

(5) 夏期セミナー振替口座について

(6) 部会紹介動画の作成について

③ 第3回運営委員会

日時: 令和5年12月4日(月)

開催方法: オンライン形式

(1) 「日本人成人の人体寸法データブック

2014-2016」販売権の譲受について

(2) 令和5年度研究例会について

(3) 令和5年度ものづくり教育フェアについて

(4) 次期部会長の推薦について

(5) 部会紹介動画の進捗状況

(6) 家政学夏季セミナー連携部会

エクスカーション

(7) その他

2) 庶務報告

① 第1回運営委員会

日時: 令和5年4月22日(土)

開催方法: オンライン形式

(1) 令和4年度事業報告

(2) 令和4年度会計報告

④ 第4回運営委員会

日時:令和6年2月26日(月)

開催方法:オンライン形式

- (1) 令和6年度の活動について
- (2) 活動助成の申請について
- (3) 中学生創造ものづくり教育フェアへの支援と体制について
- (4) 令和6年度部会総会について
- (5) 「日本人成人の人体寸法データブック 2014-2016」の販売手続について
- (6) 名誉会員について
- (7) 各係の活動報告と引継事項
- (8) 次期運営委員の紹介
- (9) 部会員数について
- (10) その他

2. 令和6年度事業計画(案)

① 総会

日時:令和6年5月24日(金)～5月26日(日)

場所:椋山女学園大学

② 夏期セミナー

テーマ:未定

開催方法:未定

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援

日時:令和7年1月下旬

場所:未定

④ 研究例会

テーマ:未定

開催方法:未定

⑤ 部会誌46号の発行

⑥ ホームページの維持管理

⑦ その他

3) 会計報告(次頁以降参照)

令和5年度 被服構成学部会夏期セミナー(部会エクスカージョン) 収支報告書

◆夏期セミナー

収入の部

費目	予算	決算	備考
参加費	750,000	791,600	72,000円×7名 54,400円×1名 50,000円×1名 32,000円×4名 22,100円×2名 11,000円×1名
学会活動助成金	0	0	
部会会計より補助費	100,000	100,000	
合計	850,000	891,600	

支出の部




費目	予算	決算	備考
1 セミナー・講演会等会場使用料	0	0	
2 セミナー・講演会講師謝金	10,000	2,170	石見美術館手土産
3 セミナー・講演会等旅費交通費	825,000	811,090	JTBに支払い
4 セミナー・講演会等消耗品	3,000	0	
5 セミナー・講演会等印刷費	0	0	
6 セミナー・講演会等要旨作成費	0	0	
7 セミナー・講演会等通信運搬費	2,000	1,040	レターパックプラス@520×2
8 セミナー・講演会等臨時雇賃金	0	0	
9 会議費	0	0	
10 支払負担金	5,000	2,035	振込手数料 110×14, 165×3
11 予備費	5,000	0	
合計	850,000	816,335	

差引残高 891,600 - 816,335 = 75,265

◆残金

令和5年度夏期セミナーの残金 75,265円を被服構成学部会会計に納入いたしました。

令和 5年 11月 22日

会計 水嶋丸美  鈴木由子  工藤寧子 

令和4年度 被服構成学部会 収支決算書

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位：円)

科目	注意	予算	決算	差異	備考
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
①基本財産運用益	(本部のみ)				
特定資産運用益	大会基金となっている定期預金の利息			0	
入会金				0	
年会費		300,000	338,500	▲ 38,500	正71、学1、永2、次正2、次永4、通正8
会誌購読料				0	
大会等参加費				0	
広告料				0	
刊行物売上				0	
著者負担金				0	
補助金	(名称と交付者を備考欄に記載願います。)			0	
一般寄付金	活動全般に使うよい寄付金	0	48,000	▲ 48,000	大塚美智子先生よりデータブック代寄付として
特別寄付金	使途を限定した寄付金			0	
雑収入	普通預金利息	10	12	▲ 2	
②本部からの支部費	(支部のみ、選挙の為の通信費も含む)				
本部からの支部活動活性化サポート費	(支部のみ)				
本部からの活動助成費	活動助成金全額(税金も含む)	0		0	
経常収益計		300,010	386,512	▲ 86,502	
(2) 経常費用					
①事業費		448,000	278,849	169,151	
大会会場使用料				0	
大会講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)			0	
大会旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い			0	
大会消耗品	文具等だけではなく弁当、懇親会費等も含む			0	
大会印刷費				0	
大会研究発表要旨集作成費				0	
大会通信運搬費				0	
大会臨時雇賃金				0	
総会費				0	
セミナー・講演会等会場使用料		5,000		5,000	
セミナー・講演会等講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)	220,000	140,000	80,000	夏期セミナー80,000、研究例会60,000
セミナー・講演会等旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い	10,000	566	9,434	夏期セミナー交通費
セミナー・講演会等消耗品	文具等だけではなく弁当、懇親会費等も含む	5,000		5,000	
セミナー・講演会等印刷費		5,000		5,000	
セミナー・講演会等研究発表要旨集作成費		5,000		5,000	
セミナー・講演会等通信運搬費		5,000		5,000	
セミナー・講演会等臨時雇賃金		5,000		5,000	
学会誌等関連印刷費		85,000	85,691	▲ 691	部会誌印刷・封筒・発送費
学会誌等関連通信費				0	
学会誌等関連原稿料・校閲料等				0	
学会誌等関連電子ジャーナル化費用				0	
研究補助費				0	
表彰費	奨励賞等	20,000	3,413	16,587	ものづくりフェア賞状用紙、ホルダー
関連学会等会費		20,000	20,000	0	ものづくりフェア協賛費
会議費	会議用のお菓子、お茶等	5,000		5,000	
広報費	ホームページ等	20,000	16,500	3,500	HP更新費
旅費交通費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する旅費交通費	30,000	6,224	23,776	ものづくりフェア宿泊費
事務委託費					
支払負担金	振込手数料	3,000	1,630	1,370	
雑費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する雑費	5,000	4,825	175	部会費基金4,000、トークン申込料金825
②管理費		23,000	10,039	12,961	
給料手当					
福利厚生費					
旅費交通費	(本部のみ)				
通信運搬費	大会、セミナー・講演会関連以外の通信運搬費	15,000	10,039	4,961	加入者負担振替料金(学会費)
備品費				0	
消耗品費	大会、セミナー・講演会関連以外の消耗品	3,000		3,000	
光熱水料費					
雑費	(本部のみ)				
相税公課	(法人税、消費税等本部のみ計上)				
地代	(本部のみ)				
印刷費	大会、セミナー・講演会関連以外の印刷費	5,000		5,000	
修繕費					
減価償却費	(本部のみ)				
リース料					
事務所管理費					
退職給与引当金繰入額	(本部のみ)				
③支部費					
支部活動活性化サポート費	(本部の支出を計上する欄)				
活動助成費					
経常費用計		471,000	288,888	182,112	
当期経常増減額		▲ 170,990	97,624	▲ 268,614	
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益	(例えば不動産を売る等、通常の活動外での収入、支出なのでは該当なし)				
(2) 経常外費用					
当期経常外増減額					
当期一般正味財産増減額		▲ 170,990	97,624	▲ 268,614	
一般正味財産期首残高	(2021年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,446,111	2,446,111	0	
一般正味財産期末残高	(2022年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,275,121	2,543,735	▲ 268,614	

貸借対照表・監査報告書

(2023年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
手許現金		0	0
普通預金(三菱UFJ銀行国分寺支店)	1,496,264	1,496,252	12
通常預金		0	0
振替口座(ゆうちょ銀行〇一九)	1,047,471	949,859	97,612
流動資産合計	2,543,735	2,446,111	97,624
2. 固定資産			
部会大会基金引当預金			
定期預金(三菱UFJ銀行国分寺支店)			
通常貯金(ゆうちょ銀行)			
固定資産合計	0	0	0
資産合計	2,543,735	2,446,111	97,624
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払い金			
負債合計			
III 正味財産の部			
正味財産			
1. 指定正味財産			
2. 一般正味財産	2,543,735	2,446,111	97,624
負債及び正味財産合計	2,543,735	2,446,111	97,624

監 査 報 告 書

一般社団法人 日本家政学会
会 長 赤塚 朋子 殿


私ども監事は、2022年4月1日から2023年3月31日までの2022年度の部会の重要な会議に出席するほか、事業報告を聞き、重要な事項を閲覧し、主要な調査を行い、かつ当該事業年度に係る計算書類について監査を実施した結果、次のとおり報告します。


1. 事業報告は規程に従い、部会の状況を正しく示しているものと認めます。
2. 貸借対照表は2022年度期末現在の財政状態を正しく示していると認めます。
3. 正味財産増減計算書は2022年度の収支の状況を適正に表示していると認めます。
4. 役員の仕事遂行に関する不正の行為または定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

2023年4月6日

一般社団法人 日本家政学会
(被監構成学) 部会

監事 川 端 博子 

監事 森 下 あおひ 

令和5年度 被服構成学部会 収支予算書

(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位：円)

科目	注意	2023年度	2022年度	差異	備考
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
①基本財産運用益	(本部のみ)				
特定資産運用益	大会基金となっている定期預金の利息			0	
入会金				0	
年会費		300,000	300,000	0	
会誌購読料				0	
大会等参加費		0	0	0	
広告料				0	
刊行物売上				0	
著者負担金				0	
補助金	(名称と交付者を備考欄に記載願います。)			0	
一般寄付金	活動全般に使うよい寄付金	0	0	0	
特別寄付金	用途を限定した寄付金			0	
雑収入	普通預金利息	10	10	0	
②本部からの支部費	(支部のみ、選挙の為の通信費も含む)				
本部からの支部活動活性化サポート費	(支部のみ)		0		
本部からの活動助成費	活動助成金全額(税金も含む)	60,000	0	60,000	
経常収益計		360,010	300,010	60,000	
(2) 経常費用					
①事業費		363,000	448,000	▲ 85,000	
大会会場使用料				0	
大会講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)			0	
大会旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い			0	
大会消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む			0	
大会印刷費				0	
大会研究発表要旨集作成費				0	
大会通信運搬費				0	
大会臨時雇賃金				0	
総会費				0	
セミナー・講演会等会場使用料		5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)	100,000	220,000	▲ 120,000	
セミナー・講演会等旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い	50,000	10,000	40,000	
セミナー・講演会等消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む	5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等印刷費		5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等研究発表要旨集作成費		5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等通信運搬費		5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等臨時雇賃金		5,000	5,000	0	
学会誌等関連印刷費		90,000	85,000	5,000	
学会誌等関連通信費				0	
学会誌等関連原稿料・校閲料等				0	
学会誌等関連電子ジャーナル化費用				0	
研究補助費				0	
表彰費	奨励賞等	20,000	20,000	0	
関連学会等会費		20,000	20,000	0	
会議費	会議用のお菓子、お茶等	5,000	5,000	0	
広報費	ホームページ等	20,000	20,000	0	
旅費交通費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する旅費交通費	20,000	30,000	▲ 10,000	
事務委託費					
支払負担金	振込手数料	3,000	3,000	0	
雑費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する雑費	5,000	5,000	0	
②管理費		23,000	23,000	0	
給料手当					
福利厚生費					
旅費交通費	(本部のみ)				
通信運搬費	大会、セミナー・講演会関連以外の通信運搬費	15,000	15,000	0	
備品費				0	
消耗品費	大会、セミナー・講演会関連以外の消耗品	3,000	3,000	0	
光熱水料費					
雑費	(本部のみ)				
租税公課	(法人税、消費税等本部のみ計上)				
地代	(本部のみ)				
印刷費	大会、セミナー・講演会関連以外の印刷費	5,000	5,000	0	
修繕費					
減価償却費	(本部のみ)				
リース料					
事務所管理費					
退職給与引当金繰入額	(本部のみ)				
③支部費					
支部活動活性化サポート費	(本部の支出を計上する欄)				
活動助成費					
経常費用計		386,000	471,000	▲ 85,000	
当期経常増減額		▲ 25,990	▲ 170,990	145,000	
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益	(例えば不動産を売る等、通常の活動外での収入、支出なので該当なし)				
(2) 経常外費用					
当期経常外増減額					
当期一般正味財産増減額		▲ 25,990	▲ 170,990	145,000	
一般正味財産期首残高	(2022年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,543,735	2,446,111	97,624	
一般正味財産期末残高	(2023年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,517,745	2,275,121	242,624	

お 知 ら せ

1. 部会費について

令和6年度の被服構成学部会費（正会員：4,000円，学生会員：2,500円，永年会員2,000円）は、5月中に下記郵便払込み口座にご送金くださいますようお願い申し上げます。また、過年度未納の方には別紙にてお知らせいたしましたので、併せてご送金ください。

郵便払い込み口座 00160-2-322300 日本家政学会被服構成学部会

なお、会費に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1

東京家政大学家政学部服飾美術学科 鈴木 由子 宛

TEL:03-3961-9304 (内 1541)

E-mail: ysuzuki@tokyo-kasei.ac.jp

〒036-8530 青森県弘前市清原 1 丁目 1-16

柴田学園大学生生活創生学部 工藤 寧子 宛

TEL:0172-33-2289

E-mail: ya-kudo@shibata.ac.jp

2. 入退会、住所変更等について

お届け、お問合せは、下記にお願いいたします。

〒732-0063 広島県広島市東区牛田東 4-13-1

広島女学院大学人間生活学部 檜崎 久美子 宛

TEL:082-228-0386

E-mail: narazaki@gaines.hju.ac.jp

※ 入会申込書および変更届、退会届の書式は最終ページをご参照ください。

※ なお、退会届につきましては（一社）日本家政学会の退会手続きとは別処理になっていますので、部会への手続きも併せてしていただきますようお願いいたします。

3. E-mail アドレスについて

E-mail アドレスの登録にご協力くださりありがとうございます。アドレスをお持ちの方で、まだご登録くださっていない方は、令和6年度会費納入の際に振り込み用紙の通信欄にご記入いただけますと幸いです。また、アドレスの変更がある場合には、なるべくすみやかにお知らせくださいますよう、よろしく願い申し上げます。

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会規約

- 第1条（名 称） 本会は、一般社団法人日本家政学会被服構成学部会と称する。
- 第2条（目 的） 本会は、会員相互の研究に関する連絡及び協力をはかり、被服構成学に関する教育・研究を促進することを目的とする。
- 第3条（事 業） 本会は、前述の目的を達成するため次の事業を行う。
- 1 総会を開催する。
 - 2 被服構成学に関する研究・討議・講演などを行う。
 - 3 部会誌を発行する。
 - 4 その他の必要な事業を行う。
- 第4条（会 員） 本会の会員は、次のとおりとする。
- 1 正会員 被服構成学及びこれに関係する分野を研究する原則として一般社団法人日本家政学会会員で、本会の目的に賛同して入会した個人。
 - 2 学生会員 本会の目的に賛同して入会した学生。
 - 3 名誉会員 元部会長、または、特に本会の発展に寄与した会員で、70歳を越えた場合に、運営委員会の議決をもって推薦された者。
 - 4 永年会員 一般社団法人日本家政学会会員の永年会員。
- 第5条（会 費） 会員は年会費を納入する。
- 1 年会費は次のとおりとする。

正会員	4,000円
学生会員	2,500円
永年会員	2,000円
 - 2 名誉会員は会費を納めることを要しない。
- 第6条（入 会） 本会に入会を希望する者は、所定の入会申込書を部会長に提出し、運営委員会の承認を得るものとする。
- 第7条（退 会） 会員が退会しようとするときは、その旨を部会長に届け出るものとする。この場合、既納の会費は返却しない。
また、継続して2年間会費を滞納した場合は、原則として退会したものとみなす。
- 第8条（役 員） 本会に次の役員をおく。
- | | |
|------|-----|
| 部会長 | 1名 |
| 副部会長 | 若干名 |
| 運営委員 | 若干名 |
| 監 事 | 2名 |
- 第9条（役員の選任） 役員の選任は、次のとおりとする。
- 1 部会長及び監事は、運営委員会がこれを推薦して、総会で選任する。部会長の選任および解任は、理事会の承認を受けるものとする。
 - 2 副部会長及び運営委員は、部会長がこれを推薦し、会員に報告する。

第 10 条（役員の任期） 1 役員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
2 役員の再任については、申し合わせを別に定める。

第 11 条（役員の職務） 役員の職務は次のとおりとする。
1 部会長は本会を代表して会務を統轄し、事業計画および予算、事業報告および決算を毎事業年度、理事会に報告する。
2 副部会長は部会長を補佐し、必要な場合には部会長の職務を代行する。
3 運営委員会は本会の業務を運営する。
4 監事は本会の会計監査を行う。

第 12 条（役員の解任） 役員が次の各号の一に該当するときは、解任を運営委員会で動議し、総会で決議する。
1 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。
2 職務上の義務の違反、その他役員たるにふさわしくない行為があると認められたとき。

第 13 条（会 計） 本会の会計は次のとおりとする。
1 経費は会費、その他をもってまかなう。
2 会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月末日に終了する。

第 14 条（規約の改廃） 本規約の改廃は総会において承認を受け、理事会に報告する。

以上

附 則

- 1 施行に関する内規は別に定めることができる。
- 2 この会則の施行は昭和 54 年 10 月 8 日からとする。
- 3 この会則の一部改正の施行は昭和 59 年 8 月 3 日からとする。
- 4 この会則の一部改正の施行は昭和 63 年 8 月 1 日からとする。
- 5 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 15 年 8 月 27 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。
- 6 この規約の施行は平成 15 年 8 月 27 日からとする。
- 7 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 18 年 8 月 22 日から被服構成学部会規約を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会会則とする。
- 8 この会則の施行は平成 18 年 8 月 22 日からとする。
- 9 社団法人日本家政学会部会運営規程および部会運営規程細則に基づき、平成 22 年 5 月 29 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。
- 10 この規約の一部改正の施行は平成 22 年 5 月 29 日からとする。
- 11 この規約の一部改正の施行は平成 24 年 5 月 12 日からとする。
- 12 この規約の一部改正の施行は平成 28 年 3 月 14 日からとする。
- 13 この規約の一部改正の施行は平成 28 年 5 月 28 日からとする。
- 14 この規約の一部改正の施行は平成 30 年 2 月 27 日からとする。
- 15 この規約の一部改正の施行は令和 2 年 3 月 6 日からとする。

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会申し合わせ

- 1 運営委員会 運営委員会は、部会長、副部会長、運営委員、監事で構成し、その中に庶務、会計、企画、広報、編集担当をおく。
- 2 役員の任期 (1) 規約第9条に従って部会長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、継続して3期はつとめられない。
(2) 運営委員の任期はできるだけ2期4年間とし、その交代は半数ずつ交互に行うことが望ましい。期間をあけての再任は、これを妨げない。
- 3 運営委員の選任 運営委員の選任にあたっては、できるだけ部会員が在住する広範な地区から選ぶように配慮する。
- 4 事務局幹事 (1) 必要に応じて事務局幹事をおくことができる。
(2) 事務局幹事は若干名とし、部会長がこれを指名する。
(3) 事務局幹事は役員会に同席することができるが、議決権は持たない。
- 5 事務局 事務局は、原則として部会長のもとにおく。
- 6 申し合わせの改廃 運営委員会の議を経て、総会で承認し、理事会に報告する。

附則

- 1 この申し合わせは、平成15年8月27日から施行する。
- 2 この申し合わせの一部改正施行は、平成18年8月22日からとする。
- 3 この申し合わせの一部改正施行は、平成24年5月12日からとする。

令和4・5年度役員

部会長 田中 早苗 東京家政大学
副部会長 村上 かおり 広島大学
丸田 直美 共立女子大学
石垣 理子 昭和女子大学

運営委員

(庶務) 伊藤 海織 金城学院大学
柴田 優子 和洋女子大学
中村 邦子 大妻女子大学
短期大学部

(会計) 水嶋 丸美 名古屋学芸大学
鈴木 由子 東京家政大学
工藤 寧子 柴田学園大学

(企画) 滝澤 愛 実践女子大学
角田 千枝 相模女子大学
砂長谷 由香 文化学園大学

(広報) 武本 歩未 日本女子大学
高橋 美登梨 目白大学 (非)

(編集) 十一 玲子 神戸女子大学
小野寺 美和 甲南女子大学
伊藤 瑞香 和洋女子大学

(監事) 川端 博子 埼玉大学
森下 あおい 滋賀県立大学

事務局 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 家政学部 服飾美術学科
TEL : 03-3961-9002
E-mail : stanaka@tokyo-kasei.ac.jp

令和6・7年度役員

部会長 石垣 理子 昭和女子大学
副部会長 村上 かおり 広島大学
薩本 弥生 横浜国立大学
十一 玲子 神戸女子大学

運営委員

(庶務) 伊藤 海織 金城学院大学
檜崎 久美子 広島女学院大学
大塚 有里 東京家政大学

(会計) 鈴木 由子 東京家政大学
工藤 寧子 柴田学園大学
井口 彰子 文化学園大学

(企画) 角田 千枝 相模女子大学
砂長谷 由香 文化学園大学
渡邊 敬子 京都女子大学

(広報) 高橋 美登梨 埼玉大学
山本 泉 武庫川女子大学

(編集) 伊藤 瑞香 和洋女子大学
末弘 由佳理 武庫川女子大学
山本 高美 和洋女子大学

(監事) 森下 あおい 滋賀県立大学
田中 早苗 東京家政大学

事務局 〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57
昭和女子大学 環境デザイン学部
TEL : 03-3411-4364
E-mail : michiko@swu.ac.jp

(一社)日本家政学会 被服構成学部会入会申込書および変更届, 退会届

入会 変更 退会 (いずれかを○で囲む)	申込年月日 年 月 日		受付年月日 年 月 日	
	ローマ字			
	氏名	氏	名	
	西暦	年生	性別	男・女 (どちらかを○で囲む)
家政学会所属支部				
自宅住所	〒(-)			
	TEL		FAX	
	E-mail			
勤務先・職名 および所在地	勤務先		職名	
	〒(-)			
	TEL		FAX	
	E-mail			
専門分野	<研究分野> <担当授業科目>			
※最終学歴				
※学位				
部会誌送付先	自宅・勤務先 (どちらかを○で囲む)			

太線枠内は必ず記入してください。E-mailも必ずお書きください。※印は差支えない範囲で結構です。

退会の場合は、今後、連絡する必要がある場合に備えて、連絡がつく自宅か勤務先の情報をご記入ください。

お届けは「お知らせ」ページの宛先まで、添付メールまたは郵送にてご提出ください。

部会費は「お知らせ」ページの口座にご送金ください。

* 個人情報保護には十分に注意をいたします。

なお、書式を被服構成学部会ホームページからダウンロードしてお使いいただくこともできます。

URL: https://www.jshe.jp/bukai_hp/hihukukouseigaku/index.html

編集後記

被服構成学学会誌第45号をお届けいたします。

この度は、ご多忙中にもかかわらず、本誌への投稿をしていただきました皆様に心より感謝申し上げます。

新型コロナの感染症法上の分類が「5類」に引き下げられ、マスクについても個人の判断での着用となりました。以前の日常が戻って来たこと一安心ですが、コロナ禍で止まっていた部会行事・イベントなどを再び動かすには、大きなパワーが必要です。

本誌を益々盛り上げていただきますよう、次号への皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

(小野寺)

お陰さまをもちまして、45号をお届けする運びとなりました。

新型コロナウイルス感染症が「5類」に引き下げられたことにより、他の学会の夏期セミナーや研究例会なども対面で実施されつつあります。今回の構成学学会夏期セミナーは島根県で行われ、オンラインとは一味も二味も違った楽しいひと時を過ごすことができました。久しぶりに先生方との情報共有や、研究のアドバイスなどもいただき、やはり対面はいいなと実感しています。

部会誌のご執筆に快くご協力下さいました先生方、心より感謝申し上げます。

今後とも、お力添えのほど宜しくお願い申し上げます。

(伊藤 (瑞))

令和6年3月31日発行

発行：(一社)日本家政学会 被服構成学部会

印刷：株式会社アディス

TEL：078-265-6336

